

過去と現在、そして100年後の未来へ



学校法人 塩原学園
創立100周年記念誌

2025年6月4日

目次

学園理念	2
歴代校歌	3
【挨拶】	
学校法人 塩原学園 理事長・本庄第一高等学校 校長 山浦 秀一	4
学校法人 塩原学園 本庄第一中学校 校長 樋口 綾乃	5
塩原学園 本庄第一高等学校 同窓会 会長 池田 浩美	6
【100 周年に贈るメッセージ】	
埼玉県知事 大野 元裕 様	7
本庄市長 吉田 信解 様	8
埼玉県私立中学高等学校協会 会長 青木 徹 様	
令和6年度 本庄第一 PTA 会長 近藤 知子 様	9
学校法人 塩原学園 後援会 会長 新井 優幹 様	
一高六〇会 会長 真下 敏明 様	10
本庄第一高等学校 生徒会 会長 前田 春月	11
本庄第一中学校 生徒会 会長 島村 優希	
【塩原学園の100年を辿る】	
歩みと沿革	12
100周年の記録	24
【卒業生インタビュー「塩原学園と私」】	
柴崎 悦代 様	35
松島 慎吾 様	37
柴崎 充彦 様	39
中町 俊耶 様	41
【後付】	
100周年記念事業委員名簿	43



きょう せい 響 生

これまで関わってくださった全ての方々
今を共に生きる全ての皆様
まだ見ぬ100年後の人々
塩原学園は創立者の想いを忘れず、
生徒と教師、職員がお互いに
影響し合いながら歩み続けます。

創立者



塩原市三郎 先生



塩原キク 先生

歴代校歌

塩原学園旧校歌

作詞 矢野 亮
作曲 吉田 矢 健治

紫刻む三山の
姿に結ぶ夢々を
溶かして澄める大利根の
流れに通う胸と胸
美しく清らかに
あゝ我等の塩原学園

十字の風に研がれつゝ
伸び行く故郷本庄に
競いて進む幸うけし
集いは薫る花の園
誇らかに眉上げよ
あゝ我等の塩原学園

働く心 経系に
祈りの想い 緯系に
堂々織りし 伝統の
錦に浮ぶ 白い鳩
はばたけよ 空高く
あゝ我等の塩原学園



旧校舎(柏)

心の空に

作詞 阪田 寛夫
作曲 大中 恩

明日をめざしてひろがる利根よ
時に激しく瀬音をたてて
土をうるおすいのちの流れ
川にまなべ 白鳥のように
たおやかに たゆみなく
あたらしい心の空にはばたけ

山をのぞんでかがやく窓は
広い天地の光をつむぎ
夢を織りだすわれらの瞳
風におかえ 若木のように
麦笛よ ひとすじに
うつくしい心の苑をつらぬけ

桐の花
うすむらさきに
高くかおれ



旧校舎(七軒町)

校歌

作詞 小林 登
作曲 金井 良弘

利根の清流 背に受けて
集う若人 学び舎に
めぐり逢い 響き生い
高めあい
心身一如 練磨して
真理求めて行く途に 希望あれ

上毛三山 仰ぎみて
芽ぶく青桐 仁の郷
奏で合い 響き生い
歓びあい
知行合一 相和して
夢を叶えて行く路に 未来あれ

我らの青春ふるさととは
本庄第一にあり



創立100年によせて

皆様方のお陰をもちまして、令和7年6月4日、学校法人塩原学園は創立100周年を迎えました。本学園は、大正8年塩原裁縫伝習所開設から発展し、故塩原市三郎先生、キク先生ご夫妻によって、大正14年6月4日に塩原裁縫女学校が創立され、今日まで100年の歴史を繋いでまいりました。この間、昭和29年には学校法人塩原学園を設立し、昭和32年4月より本庄女子高等学校、平成5年4月より男女共学の本庄第一高等学校となり、さらに平成28年には本庄第一中学校を開校、そして、令和7年に本庄第一高等学校通信制課程を開設いたしました。この創立100周年という記念すべき令和7年に併せて、本庄第一中学校が10周年、そして本庄第一高等学校通信制課程が元年を迎えますことも感慨深く、喜びに堪えません。

まだまだ発展途上の段階ではありますが、本学園が本庄の地に創立し、これまでの教育活動を続けてきました理由は、先輩諸氏が大変な苦勞の末にたどり着いた「とにかく面倒を見る」という教育観にあります。この教育観は現在も継承され、本学園のすべての教育活動における根本的な教師の姿勢となっています。時には親子の如く、時には兄弟の如く、親身になって生徒と教員が一生懸命に活動するその姿は、生徒にも教員にも自ら感動を与え、大きな成長を促します。そして得た自信とお互いの絆は、その後の人生における大きな宝物となります。このことはまさに、学園理念である「響生」そのものであり、これから先も永久的に追求すべきものと考えます。

現在、本庄第一高等学校は、時代に合わせたコース編成をし、多様な目的を持った生徒を受け入れ、それぞれの夢や希望を叶えるための取り組みを大切にしています。これまでに幾多の全国大会出場を果たした部活動や難関大学への合格など、様々な分野で活躍をする生徒を多く輩出してまいりました。

また、本庄第一中学校では、県内唯一の3か年完結型の中学校として、可能性を広げる教育を実践しており、文武両道での実績を上げております。ここに令和7年度から入学生を迎えた高等学校通信制課程を加え、さらに多様な感性、目的を持った生徒が活躍できる場を提供し、教育観だけではないシステムとして面倒を見る教育体制を整えることができました。

これからも、学園理念「響生」の文字どおり、学園を取り巻くすべての方々と影響を受け合いながら、なお一層の研鑽に努め、面倒を見る学園であり続けるよう努めてまいりたいと思います。

今後とも、更なるご支援、ご指導を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

学校法人 塩原学園
理事長
本庄第一高等学校
校長

山浦 秀一



創立100年によせて

本年、学校法人塩原学園は、創立100年という歴史的な節目を迎えました。100年という長きに渡り教育の灯を絶やすことなく守り続けることができましたのは、ひとえに本学園を支えてくださったすべての皆様のご理解とご支援の賜物であり、ここに心より深く感謝申し上げます。

創設者である故塩原市三郎先生、キク先生ご夫妻の「地域の子に生きる力を与える教育を」という熱き志のもと、手仕事を通じた実践的な学びから第一歩が踏み出され、その後、時代の変遷とともに形を変えながらも、教育に対する情熱を貫いてまいりました。

この100年の歩みの中で、本学園は常に教育の本質を見つめ、子どもたちの可能性を信じ、環境を整え、時代の要請に応じて柔軟に対応してまいりました。そのような中、数多くの生徒たちが希望とともに学び、育ち、創立以来、本学園を巣立った卒業生は31,391名にのぼります。各界で活躍する卒業生の姿は、私たちの誇りであり、本学園の教育の確かさを証するものでもあります。

また、中等教育のさらなる充実を目指し、平成28年には「本庄第一中学校」を開校、令和7年4月には「本庄第一高等学校 通信制課程」を新たに設置し、多様化する社会のニーズに応じた新たな学びの場を提供してまいります。

現代社会は急激な変化の中にあり、教育の在り方も日々問われております。価値観の多様化、科学技術の進展、予測困難な未来を前に、教育にはこれまで以上に柔軟性と創造性が求められております。そうした時代にあっても、私たちは、困難にも果敢に立ち向かい、挑戦を続ける逞しさを備えた子どもたちを育むことが使命であると考えます。

創設者の理念は、100年の歳月を経た今なお、私たちの教育の礎です。その理念を引き継ぎ、変化の激しい時代にあっても「確かな学び」と「人としての在り方」を育む場として、子どもたちが未来を切り拓く力を身につけられるよう、私たちは常に挑戦と創造を重ねてまいります。

この創立100周年という節目は、私たちにとりまして過去を振り返り、感謝を捧げるとともに、次の100年に向けて新たな一歩を踏み出す新たな出発点でもあります。今後も地域とともに歩み、信頼される学園づくりを進めながら、次代を担う若者たちの成長を全力で支えてまいります。

結びに、これまで本学園を支えてくださった皆様に改めて深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

学校法人 塩原学園
本庄第一中学校
校長

樋口 綾乃



創立100年によせて

このたび、学校法人塩原学園が創立100周年という大きな節目を迎えられましたことを、同窓会を代表して、心よりお祝い申し上げます。

本学園が長きにわたり地域に根ざした教育活動を行い、多くの卒業生を輩出してきた背景には、創立者である塩原市三郎先生・キク先生ご夫妻の「人間性豊かな人材を育てる」という理念の存在があります。その志は脈々志は脈々と受け継がれ、時代が変わってもなお、在校生、卒業生の心の中に生き続けています。

この100年の歩みは、教育に真摯に取り組んでこられた歴代の教職員の皆様、学校を支えてくださった地域の皆様、そして、教育活動にご理解とご支援を寄せてくださった保護者の方々をはじめ多くの関係者の皆様のおかげであります。心より感謝申し上げます。

私自身も塩原学園で学び、多くの仲間と出会い、数えきれない経験を通して、人として大切なことを教えていただきました。サッカーという舞台で世界に挑む機会を得た私にとって、「挑戦する心」「仲間を思いやる気持ち」は、まさにこの母校で育まれたもので大きな支えとなっています。卒業後も、国内外にとどまらず様々な分野で活躍する同窓生が、母校の名と誇りを胸に歩み続けていることは、塩原学園が育ててきた教育の確かさを証明するものだと感じております。

同窓会では、卒業生同士の絆を深めるだけでなく、母校のさらなる発展に寄与するべく、教育環境の整備や在校生への支援にも積極的に取り組んでまいりました。今後も、地域と母校、そして卒業生と在校生をつなぐ架け橋として、次の100年に向けてその役割を果たしてまいります。

結びに、塩原学園のますますのご発展と、在校生一人ひとりの輝かしい未来が希望に溢れるよう、そして、関係するすべての皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。

塩原学園
本庄第一高等学校
同窓会 会長

池田 浩美



100周年に贈るメッセージ

創立100周年に寄せて

学校法人塩原学園がここに、記念すべき創立100周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴学園は塩原市三郎・キク先生御夫婦が大正14年（1925年）、本庄の地に塩原裁縫女学校を開校されて以降、時代の変化に柔軟に対応しながら、今日まで1世紀にわたり優秀な人材を輩出され、卒業生は県内外の地域や社会の様々な分野において活躍されています。

これもひとえに、歴代の理事長や校長をはじめとする教職員の方々と学校関係者の皆様の教育に対する高い志と情熱、不断の御努力のたまものであり、深く敬意を表します。

さて、私たちは今、人口減少・超少子高齢化社会への対応、激甚化・頻発化する自然災害やパンデミックなど危機への対応、コロナ禍を契機とした急速なデジタル化の拡大やグローバル化の進展など、かつて経験したことのない大きな変化の中にいます。

そうした中、貴学園は、県内外の大学や短期大学と教育連携協定を締結し、大学教員による数多くの出張講座を実施するなど高等学校の枠にとどまらない新たな教育の機会を創出され、大学レベルの教育研究に触れる機会を希望する生徒の学習意欲に応えておられます。それに加え、東日本大震災の被災地支援のボランティア活動など学業以外の活動にも積極的に取り組んでおられます。

これらは正に、「影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む」という貴学園の理念である「響生」を具現化したものであり、どのような変化にも柔軟かつ創造的に対応できる力を育む、大きな変革期にある今の時代に必要な教育の姿であると私は大いに期待しております。

県といたしましても、引き続き私学教育の振興に取り組んでまいります。どうか、貴学園におかれましても、未来を担う子供たちの育成に、より一層の御尽力を賜りますようお願いいたします。

結びに、改めて学校法人塩原学園の創立100周年をお喜び申し上げますとともに、これを機に、更なる御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



埼玉県知事 大野元裕



100周年に贈るメッセージ

祝 創立100周年

学校法人塩原学園が、創立100周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

貴学園は大正14年に塩原裁縫女学校として創立され、変化する社会情勢のなか、男女共学化や中学校の開校、また今年度は新たに通信制課程を開設するなど、常に時代の要請に応じ歴史を刻んで来られました。多くの卒業生の皆さまが様々な分野で活躍されており、深く敬意を表する次第です。

生徒一人ひとりの希望に合わせた多様な学びの場の提供はもとより、野球部や剣道部などの運動部、吹奏楽部、美術部、書道部などの文化部、各部活動の全国的な活躍については、多くの市民が知るところであり、地域に明るい話題を提供していただいております。

予測が難しく、変化の激しい時代が続くと言われておりますが、貴学園の理念「響生」の言葉どおり、生徒同士、また生徒と教師の皆さまが互いに心を通わせ響かせ、よき伝統を末永く受け継ぎ、さらなる飛躍をとげることを期待しております。

結びに、理事長先生をはじめとする教職員の皆様、生徒並びに関係各位のご健勝と、今後のますますのご活躍を心から祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

本庄市長

吉田信解



創立100周年記念祝辞

学校法人塩原学園の創立100周年という記念すべき節目を迎えられましたことを、埼玉県私学中学高等学校協会を代表して、心よりお祝い申し上げます。

1924年に塩原裁縫女学校としてその歴史を刻み始められた塩原学園は、1954年の準学校法人化、1957年の本庄女子高等学校への改称、平成5年の男女共学化に伴う本庄第一高等学校への改称、平成28年の本庄第一中学校開校など、時代の要請に応じた発展を遂げて来られました。その歩みには、教育に対する先見性と、地域社会との深い結びつきが色濃く反映されています。

塩原学園の理念である「響生」は、人と人が影響し合い、ともに成長することの大切さを説いており、100年の歴史を貫く教育の指針となっています。近年では通信制課程の設置、留学生制度を活用した国際教育の充実、高大連携の推進など、多様な教育活動に取り組み、その挑戦が地域のみならず広く社会に新たな価値を提供しています。これらの取り組みは、まさに「響生」の理念を具現化するものであり、次世代を担う人材育成に大きな貢献をされています。

これからの100年も、塩原学園が培ってきた伝統と実績を礎に、新しい時代にふさわしい教育の形を追求し続けられることを、心より期待しております。貴学園のますますの発展と、ここに集う皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

埼玉県私立中学高等学校協会

会長 青木 徹



100周年に贈るメッセージ

塩原学園創立100周年をお祝いして

創立100周年を迎えるにあたり、PTA会長としてこの特別な節目に寄稿できることを大変光栄に思います。塩原学園の学園理念「響生」は、相互の理解と共感を深め、共に成長していくことの重要性を示しています。私たち保護者も、この理念を胸に、生徒たちの成長を見守り、支える存在でありたいと考えています。

昨今、本庄第一中学校・高等学校では生徒達の学びの場が整備され、特に本校のスポーツ環境は着実に進化しています。新しい環境が整ったことで、学生たちが心身共に成長し、益々、仲間との絆を深めることができるでしょう。そして、この素晴らしい設備で生徒たちが学校生活や部活動にて、更に技術を磨き、挑戦を楽しむ場となると期待しております。

創立100周年は、これまでの多くの歴史と伝統の上に築かれた節目であり、今後も「響生」の精神を次世代へと引き継いでいくことが私たちの使命です。地域の皆様の支えとともに、これからも生徒たちが心豊かに成長できる環境を整えていくことを保護者として強く願っています。

最後に、塩原学園のさらなる発展と、在校生、卒業生、そして保護者すべての幸せを心より祈念いたします。

令和6年度
本庄第一PTA 会長
近藤 知子



塩原学園創立100周年に寄せて

この度、学校法人塩原学園が創立100周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。本校が誕生し、時代に合わせた変革をしながら100年の歴史と伝統をもつ学園となったことは後援会としても大変うれしく、誇らしく思っております。

本校の学園理念である「響生」は生徒・教職員が互いに響きあい、前進し、活力ある学園を共に築く教育をおこなう私学の独自性を兼ね備えた教育理念であり個性を重視する現代教育にも通じるものがあります。学校の第一の目的はそこで学び巣立った人材が社会に貢献できるように教え育てることだと考えます。本校は多岐にわたって多くの経験を積める学び舎です。今までも人として社会に役立つ人材を多数輩出しており、生徒の皆様は本校のよき校風と伝統を継承し築くために頑張り、本庄第一中学校・高等学校の生徒として誇りを胸に歩んでください。今日まで塩原学園のよき伝統を教え導いてくださった教職員の皆様方に心より感謝申し上げます。

現在は今までにないスピードで色々な事が変化しています。しかしながら塩原学園はその変化に対応して益々発展していくことを祈念申し上げます。そしていつまでも若人が笑顔で集まれる学校を作り続けていただき、次の100年に向けて前進して行きましょう。後援会では引き続き生徒の皆さんの教育環境の充実と本学園の発展に微力ながら支援してまいります。

終わりに、記念誌の作成にあたり、教職員および関係各位はじめ生徒の皆さんの多大なるご尽力に感謝申し上げますとともに益々のご活躍とご多幸を祈念申し上げ、塩原学園創立100周年に寄せるご挨拶とさせていただきます。

学校法人 塩原学園
後援会 会長
新井 優幹



100周年に贈るメッセージ

創立100周年に寄せて

このたび、学校法人塩原学園が創立100周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。長きにわたり、地域に根ざし、多くの優れた人材を輩出されてきた貴校の歩みは、まさに教育の理想を具現化するものであります。

貴学園が掲げる理念「響生」と生徒・教職員が礼節を重んじ共に学び共に向上しようとするその教育方針の成果は、これまでの教職員の皆様の熱意と努力、そして卒業生の皆様の活躍によって脈々と築かれてきたものと存じます。100年という節目は、過去を振り返り、未来への展望を描く大変貴重な機会です。この伝統と誇りを胸に、次の100年へとさらなる飛躍を遂げられることを期待しております。

先の見えない時代になっています。「気力・知力・体力を備えチャレンジを継続できる人間」を育てる塩原学園で学んだ生徒達は、きっとこの不透明な時代を軽々と飛び越え、自らの未来を創り出してくれると信じています。

最後に、貴学園のますますのご発展と、在校生・卒業生の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。重ねて創立100周年、誠におめでとうございます。
～Challenge Everything～

本庄第一中学校・高等学校

一高六〇会 会長

真下 敏明



100周年に贈るメッセージ

誇り

創立100周年という特別な日を迎えられたことを心から嬉しく思います。

生徒一人ひとりの成長を変わず大切に続ける先生方によって、多くの生徒が社会に羽ばたいて行きました。時には、卒業生の子どもが次の「本一生」になったり、卒業生が教師となって次の生徒を育てたりと、多くの人との縁が繋いだ100年間だったと思います。

先輩方が築いてきた伝統や精神は、私たち在校生の心の中に息づいています。そんな私たちが今後の100年を見据えるとき、新たな挑戦を続けることが重要だと考えています。

私自身、生徒会長になるまで諦めやすい性格でしたが、生徒会活動を通して友人、先輩・後輩、時には先生や学校外の多くの方々と関わり響き合う中で、やり遂げる大切さや責任感を学びました。この学び舎を卒業した後も、立場や周りの環境が自分を変えてくれた経験を活かし、正義感と使命感をもって社会に貢献できる大人になりたいと思います。この目標に向けて一所懸命に努力と挑戦をし続けたいと考えています。

そして、塩原学園が教育だけでなく、地域社会と共に歩んできた歴史を私は誇りに思っています。地域の方々との繋がりを大切に、感謝の気持ちを持って行動することで、学校と地域の絆をより一層深めていきたいと考えます。

100周年を迎えられた本庄第一高校で、本一生として学べたことを誇りに思います。

本庄第一高等学校

生徒会 会長 前田 春月

繋ぐ

学校法人 塩原学園は令和7年6月4日に創立100周年を迎えました。この記念すべき日を在校生として迎えられたことを改めて誇りに思います。

また、仲間達と共に祝い出来ることにも深く感謝致します。塩原学園創立100年の長い歴史の最後尾に今私がいるのだと思うととても感慨深いです。

私が通っている本庄第一中学校は先生方が優しく、頑張る私達をいつも応援してくださっています。お陰で、伸び伸びとやりたいことにチャレンジすることが出来ています。この学校で勉強にも学校行事にも本気で一緒に取り組める良い仲間達とも巡り合うことも出来ました。

私は生徒会長として10年後も20年後も100年後もこの学校を誇りと思えるような、今よりもっと過ごしやすい環境を作っていきたいと思っています。古き良き伝統をさらに良いものにして後世へと繋げていきたいです。そのために今できることをやり、時が流れてもずっとここにいたい、そんな場所を作っていきたいと考えています。

創始者である塩原市三郎先生、キク先生ご夫妻の意思や想いを受け継ぎ、来年、再来年と新しい蕾が花開くことを願い、私達が歴史を繋いでいきます。そして、本庄第一中学校の生徒になったことに感謝し、この学校で学んだことを活かし、将来に向けて勉学に励んでいきます。最後に、塩原学園のますますのご発展を心から願い、お祝いの言葉としたいと思います。

本庄第一中学校

生徒会 会長 島村 優希



塩原学園の100年を辿る 歩みと沿革

～市三郎先生とキク先生の歩みで辿る100年～



塩原学園 歴史年表

年	日	内容
大正14年	6月 4日	塩原裁縫女学校を開設(埼玉県知事認可) 校長 塩原市三郎
昭和 6年	4月22日	塩原高等裁縫女学校(甲種実業学校)と改称(文部大臣認可)
昭和14年	10月31日	本庄高等家政女学校(甲種実業学校)と改称
昭和29年	1月 1日	準学校法人塩原学園設立(埼玉県知事認可)
昭和29年	11月27日	準学校法人塩原学園を組織変更して学校法人塩原学園設立(埼玉県知事認可) 塩原市三郎 理事長就任 本庄家政高等学校家庭科課程(新制高等学校)設置、同日開校 従来の本庄高等家政女学校(各種学校)を本庄家政専門学校と校名変更し併設
昭和30年	11月 3日	副校長 塩原キク教育功勞により、藍綬褒章授与
昭和32年	4月 1日	本庄家政高等学校を本庄女子高等学校と校名変更 普通科課程及び家庭科課程設置
昭和34年	4月 1日	本庄女子高等学校に商業科課程新設
昭和36年	4月 1日	塩原興道 校長就任
昭和37年	10月20日	山口清子 校長就任
昭和37年	11月15日	高橋知徳 理事長就任



塩原学園 歴史年表

年	日	内容
昭和46年	5月 1日	多田直之 理事長就任
昭和49年	4月29日	徳江嶂 副校長 勲五等双光旭日章授与
昭和51年	8月 1日	保坂浩哉 校長就任
昭和53年	8月 8日	新校舎建設起工式挙行
昭和54年	9月10日	一期工事竣工
昭和54年	9月12日	新校舎本庄市仁手に全面移転
昭和55年	11月 1日	二期工事竣工全館完成
昭和58年	11月 5日	メモリアル60竣工祝賀記念式典挙行
昭和60年	1月18日	保坂浩哉 理事長就任
昭和60年	10月19日	創立60周年記念式典挙行





1930年代～

創立から6年 —— 塩原高等裁縫女学校 設立
社会で活躍できる力を備えた女学生を育成する実業教育へと舵を切る

“ 学んだことが「道」になる。だからこそ、資格が要るんだ ”

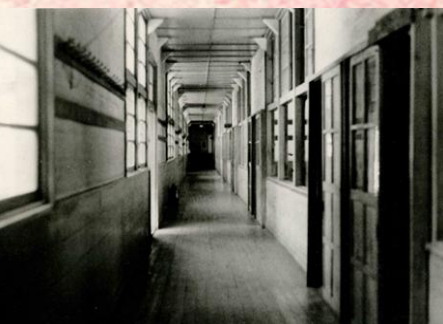
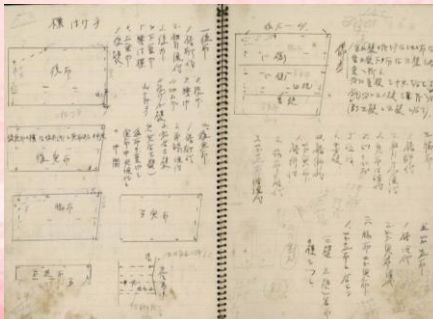




1940年代～

時代の影と努力の灯
物資が不足し、夜は仕立物を受け、内職で灯りをつなぐ
栃木の山十製糸工場で、市三郎先生は女子社員の修養講座を担当
キク先生も、每晚教壇に立ち続けた

“ 食べるものがなくても、学ぶことは手放さない ”
“ 教育は、愛がなければ、心には届かない ”





1950年代～

中等教育免許を取得
学校は“正式な学び舎”として、未来へと羽ばたく

“卒業証書が、彼女たちの未来を証明する”





1980年代～

校舎を移転し、迎えた創立60周年
生徒と共に歩み続ける教育が「響生」という学園理念になっていく

“ 生徒と教師が響き生い、学びあう教育がここにある ”



塩原学園 歴史年表

年	日	内容
平成元年	4月 1日	野口克己 理事長就任 小林 登 校長就任 普通教室平成棟竣工
平成元年	7月 1日	SI宣言・SI計画始動
平成 2年	4月 1日	類型コース制導入
平成 3年	4月 1日	国際コース開設 国際交流事業始動
平成 5年	4月 1日	男女共学に伴い、本庄女子高等学校を本庄第一高等学校と校名変更
平成 5年	5月29日	山口 修 理事長就任
平成 7年	3月26日	第2体育館、第2普通教室棟竣工
平成 7年	10月12日	創立70周年記念式典挙行
平成10年	4月	第2グラウンド完成
平成11年	4月	第2次SI計画始動 新教育システム導入 芸術コース開設
平成16年	4月	留学・芸術選択コース開設
平成17年	10月29日	創立80周年記念式典挙行



塩原学園 歴史年表

年	日	内容
平成19年	4月 1日	高階良雄 校長就任 特別進学類型S特別進学コース開設
平成20年	4月 1日	商経コース廃止 体育コース、留学芸術選択コース廃止 進学類型αコース・βコース開設 2類型4コース制開始 特別進学コース、進学αコース・進学βコースに 体育専攻、芸術専攻設置
平成20年	8月	第90回全国高等学校野球選手権記念大会 初出場(甲子園)
平成22年	8月	第92回全国高等学校野球選手権大会 2回目の出場(甲子園)
平成24年	3月27日	第21回全国高等学校剣道選抜大会 優勝
平成26年	4月 1日	吉田秀也 校長就任
平成28年	4月 1日	本庄第一中学校開校 相川浩一 高等学校校長就任 相川浩一 中学校校長就任
平成30年	9月21日	相川浩一 理事長就任 山城寿男 高等学校校長就任
令和元年	10月15日	学校法人國學院大學との包括的連携に関する基本協定を締結
令和 3年	4月 1日	山浦秀一 高等学校校長就任 樋口綾乃 中学校校長就任
令和 4年	11月15日	山浦秀一 理事長就任



1990年代

女子教育を共学へ
女子教育を通じて築いてきた教育理念を共学の教育へ生かす時が来た
本庄女子高等学校を本庄第一高等学校と校名変更

“ 女子に教育が必要な時代から、性別関係なく「人を育てる」ということに
情熱を注ぐ本庄第一の理念は変わらない ”





2010年代～2020年代

時代が求める教育の実践
学習環境の充実

“ 共学の学び舎が賑やかになり、生徒が様々なことに挑戦していく ”
“ 制服も変わったけど、真剣なまなざしは変わっていない ”





2025年

塩原学園創立 100 周年
創設者から受け継いだ教育理念を継承し
本庄第一は人を大切に育てる教育を次の世代に繋いでいく

“ 市三郎さん、私たちの想いがこんなにも花開いたわ ”
“ そうだね、私たちの夢は受け継がれ、未来へ繋がっていくんだ ”



プロジェクションマッピング
動画はこちら



Click

<https://www.youtube.com/watch?v=Uh9oiNaeB6Q>

100周年 記念ロゴ

HONJO DAICHI



塩原学園校章「桐の花」と本庄第一高等学校シンボルマーク「ファインハート」に 100 周年を組合せ、紫を基調としたロゴを作成

100th 100周年記念式典

熊谷スポーツ文化公園(彩の国くまがやドーム)

令和7年6月4日10時より



くまがやドーム



吹奏楽部



国歌斉唱

学校法人 塩原学園

創立100周年記念式典

オープニング

開式の辞

国歌斉唱

理事長挨拶

理事長

山浦秀一

同窓会会長挨拶

同窓会会長

池田浩美

来賓祝辞

埼玉県知事

大野元裕様

本庄市長

吉田信解様

元法務大臣 衆議院議員

小泉龍司様

文部科学副大臣 衆議院議員

野中 厚様

来賓紹介

生徒代表の言葉

生徒会長 前田 春月

式典演技

ダンス部

道一〇〇周年の軌跡が未来を紡ぐ

校歌斉唱

閉式の辞



100周年記念式典

プロジェクションマッピング



横山電気株式会社とGoing46のみなさまと記念撮影

100th 100周年記念式典

式 辞



山浦理事長



池田同窓会会長



100周年記念式典

祝 辞



埼玉県知事 大野元裕様 より祝辞

埼玉県知事
大野 元裕 様



本庄市長
吉田 信解 様
(写真は代理出席の山下部 勝 氏(本庄市副市長))



元法務大臣 衆議院議員
小泉 龍司 様
(写真は代理出席の新井 敏之 氏)



文部科学副大臣
衆議院議員 野中 厚 様



100周年記念式典

式典演技 道～100年の軌跡が未来を紡ぐ～



100周年記念コンサート



青島 広志 氏(作曲家)



青島 広志 氏 と 小野 勉 氏(テノール歌手)



横山 美奈 氏(ソプラノ歌手) と 青島 広志 氏

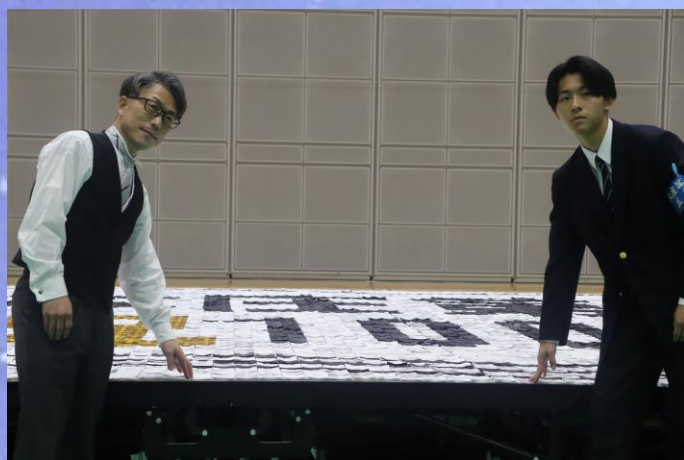




100周年記念式典

ギネス世界記録®に挑戦！！

～折り紙で作ったリボン/蝶ネクタイの最多展示数～





100周年に向けて

創立100周年記念週間

令和7年5月29日～6月5日



100周年記念事業

- ・サッカーグラウンド 人工芝設置
- ・高校グラウンド 照明設置
- ・テニスコート 照明設置
- ・グラウンド 防球ネット改修
- ・高校体育館 冷房設備設置
- ・高校体育館 屋根改修
- ・中学体育館 LED照明設置
- ・フリースクール開校
- ・通信制課程 設置



航空写真撮影



サッカーグラウンド 人工芝設置



テニスコート照明設置



グラウンド防球ネット改修

卒業生×インタビュー

「塩原学園と私」

厳しさの中に、温かさがあった・・・



柴崎 悦代 さん

本庄女子高等学校 昭和52年 卒業生

柏校舎時代の思い出

司 会) 本日はお忙しい所、100周年記念誌インタビューに応じてくださりまして、誠にありがとうございます。

柴崎さん) 少々緊張しておりますが、よろしくお願いいたします。創立100周年を迎えるのだそうで、おめでとうございます。

司 会) ありがとうございます。こちらこそ、どうぞよろしくお願いいたします。早速ではございますが、柴崎様のプロフィールをお伺いいたします。

柴崎さん) 柴崎悦代と申します。旧姓は杉村です。昭和52年に卒業いたしました。

司 会) 柴崎様は当校の柏校舎時代をご存じだとお聞きました。当時の校舎はどのような感じでしたでしょうか？

柴崎さん) 本庄高校様の北側隣にありました。こちらの仁手校舎に比べると小さくて。今から考えてみると、こじんまりとまとまっているといった感じでした。

司 会) 本日は卒業アルバムと当時撮影されたお写真をお持ち下さっているそうですね。大変貴重なアルバムをありがとうございます。拝見しながらお話をお聞かせくださいますか？

柴崎さん) はい。このインタビューのお話を頂戴しまして、奥にしまってあったのを引っ張り出しました。

司 会) これは本当に貴重なお写真ですね。ベテランの先生がこんなにお若い……。柏校舎は全て木造だと思い込んでいましたが、違うんですね。

柴崎さん) ええ。鉄筋コンクリートの4階建てでした。木造の校舎もあり、私が1年生の時は、確か木造校舎で授業を受けていたと思います。

>>次ページにづく

「本庄第一の生徒はいいね！」と評価される学園に。

担任は小林 登先生

司 会) 卒業時は3年6組に在籍されておられたそうですね。担任の先生は後に校長先生になられる小林登先生ですね。小林先生とは数年間、私も一緒にお仕事をさせていただきました。残念ながらご他界されてしまわれましたが…。

柴崎さん) 小林先生が亡くなられたと伺った折は大変に驚きました。まだお若いのに、同窓生とも話しておりました。

司 会) 昔の先生方は厳しかったと聞いていますが、どうでしたでしょうか？

柴崎さん) 厳しかったですね(笑)！。でも厳しさの中に、なんと申しましょうか「あたたかさ」があったなと。当時は叱られて腹もたちましたけれど、先生方は私たちのことを思ってあえて厳しく言ってくれていたんだと、今は思います。

司 会) 高校時代の思い出や、今につながっていることなどがありましたらお聞かせください。

柴崎さん) だいが前のことになりますので、記憶が薄れていますが…。女子校ならではの、楽しい生活を友人と過ごしていました。近所に住む同窓生とは今も変わらず交流があって高校時代の話をしませんが、やはり生活指導が厳しかったという話になります。例えば登下校時に、校門で一礼するというルールがありました。先ほども申しましたが、そうした何気ない所作の一つ一つが、その後の人生の基盤になっていると思います。

卒業生として塩原学園は？

司 会) 現在のご自身は、高校卒業時の想像通りでしたでしょうか？変な質問かも知れませんが…。

柴崎さん) 今のことは全く想像もできなかったです。卒業後、私は百貨店に就職しました。就職して不安を抱えながら、とにかく頑張ろうと思う日々を過ごしていました。現在は夫と二人暮らしで、隣には息子夫婦と孫が住んでいます。今も時間勤務で働いていますが、卒業当時にこうした未来は想像してなかったです(笑)。

司 会) 卒業生として、現在の塩原学園をどうご覧になっておられますか？

柴崎さん) 校舎の移転や共学化・校名変更、中学校の併設は思ってもいなかったことなので、驚きました。いろいろな社会情勢の変化に対応しながら、学園の皆様が努力されてきたのだらうと拝察しています。運動部や文化活動、進学実績など、本庄第一高校の知名度が上がってきているとも感じていまして、卒業生として嬉しく思っています。

中学生・高校生へのメッセージ

司 会) 将来に悩む、中学生・高校生に向け、激励をお願いしますか？

柴崎さん) 不安があったら、周囲の人に話を聞いてもらうことが大事だと思います。ご家族や先生方、友人など、誰でも良いのだと思います。私もこれまでいろいろなことで悩み、不安にかられたこともありましたが、話を聞いてくれる人がいつも私の周りにいてくれました。みんな悩んで・叱られて・迷って・励まされて、そして自分で決断して大人になるんだと思います。まずは言葉にしてみましょう。不安な気持ちを聞いてくれる人があなたには必ずいるはずです。

司 会) インタビューの結びとして、次の100周年への一歩を踏み出した塩原学園に、メッセージをお願いしますか？

柴崎さん) 次の100年ですか…。想像もつきませんが、まずは母校がこの先もずっと発展して欲しいと願います。この20年くらいで見ても日本の至る所で、廃校や統廃合などが見られます。少子化などで教育をめぐる環境は、大きく変化することになるでしょう。だからこそ、地域の人々から応援してもらえる学園を目指して欲しいと思うのです。部活動の活躍、進路実績の伸張も嬉しいことですが、「本庄第一の生徒はいいね！」と地元から評価される学園であってほしいと思います。学園に関わる全ての皆様のご尽力で、ますます塩原学園が発展されますことを、卒業生として心から願っております。

司 会) 本日はお忙しい中、長時間ありがとうございました。今後とも塩原学園へのご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

就職後、京都大学で博士号を取得、製薬会社で研究者の道を歩む



橋本 邦雄 先生

本庄第一高等学校に
1984年4月～2022年3月まで勤務
社会科教諭
進路指導を通じて、多くの生徒の
進路実現に携わっていた



松島 慎吾 さん

杏林製薬株式会社創薬本部
わたらせ創薬センター基盤研究所
副主任研究員 医学博士

橋本先生) 今、何の仕事をしていますか？

松島さん) 日本の製薬会社で研究所に勤めて、主に
医薬品の研究開発に携わっています。

橋本先生) 学位としては、医学博士なんですよね？

松島さん) 高校を卒業して、慶応義塾大学の総合
政策学部に入ったのですが退学し、東
京理科大学の薬学部に入り直して、修
士課程に進みました。
そして就職活動をし、今の製薬企業に
入社しました。その後、社会人特別選
抜という枠で、京都大学の医学部に行
かせていただいて、博士号を取得し、
会社に戻ってきました。

橋本先生) どんな高校生だったんですか？

松島さん) 実は第一高校から5分くらいのところ
に実家がありまして。そこから通っていた
んです。近いから逆に遅刻とかいっぱいし
て、怒られていました。

橋本先生) 勉強はしていましたか？

松島さん) 1年～2年の初めまでは定期テストをある
程度勉強をしっかりと。受験を意識し
だしたのは、そう早くはなかったです。た
だ理系だったので、数学や化学はまあな
んとか。周囲は英語が苦手な人が多く、
私もそんなに得意ではありませんでした。

橋本先生) 個別指導をやり始めたのは、1年生の3学
期の終わりぐらいだね。

高校時代は英語が不得意で個別指導を受けました

松島さん) 最初は本当に辛くて…。なかなか続かなかった時期もあったと記憶していますが、ようやく続けられるようになってきて、ちょっと面白いなって思い始めたのは、大きかったと思います。

橋本先生) 大学受験は前半戦、全滅したじゃないですか。私はもう、頭を抱えました…。

松島さん) 今でも覚えています。一番初めの入試で全然できなくて、立て続けに落ちまくるという、あの感じは覚えています。

橋本先生) 卒業式の練習の時に、慶応義塾大学の合格が入ってきて。本当にあの時は涙が出そうでした。

松島さん) ありがとうございます。
はい、そうでしたね。



先生方の協力があれば、希望するところまで行ける！



橋本先生) 入学して半年くらいの時に「東京理科大の再受験を考えているんだ」って言っていましたよね。正直、驚きました。もったいないんじゃないかって。

松島さん) SFCはいろいろ学べる所で、ITとかゲノムについてだとかすごく面白くて、結局は1年で中退しましたが、単位は全部取っていました。将来どういう仕事をやりたいのか考える機会もあって。自分は何がやりたいのだろうと思っていました。

橋本先生) 再受験を決意されたのはすごいですね。

松島さん) かなり悩みましたが、結果的には今やっていることに繋がっているのよかったのではないかと思います。

橋本先生) 最後に塩原学園が創立100周年を迎えます。何かメッセージをいただければ。

松島さん) 私は特進コースで入学しましたが、他コースにも友達がいて、いろいろと良い刺激を受けていました。先生方はずっと親身になって下さっています。卒業した後も、たくさんの良いニュースを耳にすると、嬉しく思います。みんなが頑張ってくれると、卒業生として私もすごく嬉しいです。



インタビュー動画はこちら



<https://www.hon1.ed.jp/school-news/jhs-100th-anniversary/>

「入学の決め手はスクールバス、そして楽しそうだったから。」



柴崎 充彦 さん

前橋赤十字病院医師
消化器内科専門医

橋本 邦雄 先生

本庄第一高等学校に
1984年4月～2022年3月まで勤務
社会科教諭
進路指導を通じて、多くの生徒の
進路実現に携わっていた



橋本先生) 現在のお仕事について、具体的に教えてください。

柴崎さん) 消化器内科医として働いています。具体的には胃カメラや大腸カメラなどです。専門は肝臓なので、肝臓癌や肝炎の治療などもやっています。

橋本先生) なぜ、本庄第一高校に入学を決めたんですか？

柴崎さん) 二つありますね。一つはスクールバスがあったからです。もう一つは他校にも学校見学に行きましたが、本庄第一は楽しそうだと、すごく印象に残ったからです。

橋本先生) 本庄第一高校では、柴崎さん以前に医学部合格者は出てなかったんですよ。そのことは知っていましたか？心配はなかったですか？

柴崎さん) そうですね、そこまでは…。

橋本先生) 高校生活はどんな感じでしたか？

柴崎さん) 結構楽しかった思い出が多いかな。ほとんど勉強漬けだったと思うのですが、友達と関わりましたから。今でも連絡は取り合っていますから、やっぱり良い三年間を過ごしたんじゃないかと思います。

橋本先生) 勉強で辛いことはありましたか？

柴崎さん) あんまりなかったですね。寝たり食あたりの時間を削ったりするほどの勉強はしてなかったです。

患者さんのありがとうが自分の原動力

橋本先生) ヨーロッパ修学旅行は一緒に行ったんでしたっけ？

柴崎さん) ですね、イタリアにね。(その後)大学の卒業旅行で友達とも行きました。

橋本先生) 今の仕事で楽しいというか、やりがいのあることってありますか？

柴崎さん) 治療して、患者さんが帰るとき、喜んでもらって、ありがとうって言うってくれる方も多いので、そういう時ですね。

橋本先生) 医者として一番苦労することとは何でしょうか？

柴崎さん) やっぱり膨大な知識が必要になってくるので、そこまで全部が全部分かるわけではないので…。医者になってからくじけそうになった時はあります。駆け出しのころ、頼るっていうのがうまくできなかった時があって、自分だけでなんとかしようとしていた時は本当に…。



高校時代、頑張った思い出が支えになる！



橋本先生) これから医師を目指す生徒に、なにかアドバイスはありますか？

柴崎さん) どんどん大変になってくると思います。やる事が多くなってますし、覚えることも増えていってますね。目の前の患者さんのことを対応しつつ、周りに相談して助けを求めながら、後輩には手を差し伸べられるようにしていただければと思います。

橋本先生) 後輩の皆さんに一言を。

柴崎さん) 受験勉強だとか高校生活を頑張っている皆さん、三年間はとっても短いと思います。高校の時「あれ頑張ったな」って思えるようなことが一つでもあったらいいのかなと思います。思い出っているのが、やっぱり支えになってくる時もあると思うので、ぜひ頑張ってください。



インタビュー動画はこちら

Click

<https://www.hon1.ed.jp/school-news/jhs-hs/100th-anniversary/>

「いい仲間、先生との出会いで、高校生活を濃いものに！」



中町 俊耶 さん

パリ パラリンピック 車椅子ラグビー
金メダリスト
本庄第一高等学校野球部OB



田中 康敬 監督

塩原学園 事務長
本庄第一高等学校野球部監督

田中監督) 世界一おめでとうございます。

中町さん) ありがとうございます。

田中監督) パラリンピックが終わって時間が経ちましたが、今の気持ちはどうですか。

中町さん) 日本代表チームの悲願の金メダルだったというところで、本当にそのためだけに僕も頑張ってきました。僕が入る前からずっと日本代表を支えてきてくれた数多くの先輩方がいらしたで、日本のラグビーに関わってくれた多くの方の願いが叶った瞬間だったなと思い、感無量という感じです。

田中監督) 車椅子ラグビーとはどのように出会ったのですか？

中町さん) 入院していた病院の体育館で、車椅子ラグビーのクラブチームの選手たちが練習していて、その練習を見に行っただけです。最初は正直なところ、障害を負っているのになんで？みたいな気持ちだったんですけど、初めて見に行っただけに、僕と似たような怪我をした選手たちがすごいスピードを出して、ぶつかって転んだりしても、また起き上がって、走る姿にすごい勇気をもらった感じでした。

支えてくれた母に感謝しかありません

田中監督) ご自身の一番の支えは何でしょうか？

中町さん) 一番大きかったのは母ですね。ずっと自分が野球をやっている時も、すべての自分の時間を使ってくれましたし、怪我をしてからも自分が住める環境を退院するまでに完璧に整えてくれていました。その母親が自分のためにやってくれていたものってというのは、本当に大きなものだったかなと思います。姉も僕が大学を終えて帰宅するときも、送り迎えをしてくれたり、本当に母と姉に僕は怪我をしてから支えられたと思いますし、感謝の気持ちでいっぱいです。



次の目標はパラリンピック2連覇



田中監督) 今後の目標を教えてください。

中町さん) 今回のパラリンピックでチームとして最高の成績を挙げられましたが、僕個人の成績を振り返ってみると、満足していない部分はたくさんあります。次はもちろんチームとしてパラリンピックで2連覇を目指すという目標に加えて、自分がチームの軸として活躍することを今は大きな目標としています。

田中監督) 最後に100周年を迎える本庄第一高等学校の卒業生として一言お願いします。

中町さん) 本庄第一高校は本当に素晴らしい環境が整っている学校です。高校生活の中でいい友達やいい先生と出会ってほしいです。皆さんにはやりたいことはしっかり頑張しつつ、苦手なことにも挑戦して欲しいです。卒業後、そのようなことが自分の力となって大きな自信になると思います。たくさんのことにチャレンジしながら、濃い3年間を過ごしてほしいなと思います。



インタビュー動画はこちら



<https://www.hon1.ed.jp/school-news/jhs-100th-anniversary/>

後付

本記念誌作成、ならびに創立100周年記念式典開催にあたり、
多くの方々にご協力を賜りました。
心より感謝を申し上げます。

100 周年記念事業実行委員

総合実行委員長	樋口 綾乃		
式典	小林 浩美	中 幸弘	
接待・昼食	川部 暁代	中村 大輔	
記念誌	佐々木修一	粕谷 宗伸	堀口 崇
記念週間生徒用	糸井 大輔	倉林 寛	
寄付事業	清水 隆介	田中 康敬	
記念事業	田中 康敬	石川 浩平	
庶務	飯島 典哉		
広報	柴田 豪	山田 千歳	

